

開催地名	兵庫県芦屋市
開催日時	令和7年11月21日(金) 13:00 ~ 14:30
開催場所	芦屋市役所東館3階災害対策本部オペレーションルーム
語り部	中川 奈穂子(熊本県熊本市)
参加者	芦屋市職員防災研修 54名
開催経緯	<p>本市は、阪神・淡路大震災を経験した自治体ではあるものの、当時から在籍する職員は少なくなり、震災後に生まれた職員が増えている。また、震災以降、大規模災害時の災害対応を経験した職員が少ないため、災害対策本部の運営等に課題を感じている。職員も能登半島地震等で報道は見ており、本市職員の中にも被災地派遣で業務を行った職員はいるものの、「被災自治体の状況」のイメージができていない。そのため平時の担当業務において「防災」及び「災害対応」の意識を持ってもらいたい。また災害時、職員自身も被災者である中で、「自助」としての事前の備え、そして自治体職員として、対応を行う際の感情の整理について学ぶ機会としたい。</p>
内容	<p>(1)はじめに</p> <p>今日、ご参加の皆さんは防災に関心がある方、仕事として向き合う必要がある方などさまざまいらっしゃる。ここに来ていない人へどのように知識を広げるか、職場でどう共有するかという課題も含め、災害対応の考え方を持ち帰ってほしいと思っている。重要なのは、想定外の事態に直面した時でも、複数人で状況を共有し、柔軟に考え、判断し、行動できる組織であること。</p> <p>これまでの経験を交えながら、熊本地震の概要、行政職員として災害時に迫られた選択と判断、平常時の備えの重要性、そしてこれからの防災意識の持ち方についてお話をさせていただく。もし「この事態が起こるとしたらどう行動すべきか」という思考を養うきっかけとして活用いただきたい。</p> <p>(2)多様な部署経験と人とのつながりの重要性</p> <p>これまで、道路管理課、事業管理課、市民協働推進課、職員厚生課、中央区まちづくり推進課、そして社会福祉協議会への出向など、さまざまな分野を経験してきた。これらの部署で得た知識は災害対応において大きな力となった。道路管理課では道路状況の把握、事業管理課では廃棄物処理の実態、市民協働推進課では地域住民やボランティアとの連携、職員厚生課ではメンタルヘルス、社会福祉協議会では、災害ボランティアセンターの運営を担った。こうした経験を通じて痛感したのは「人を知っていることの強さ」である。災害時には、通常時以上に多くの専門知識や情報が必要になる。そして、それを持っているのは人である。</p>

誰がどんな強みを持っているかを知っていると、判断のスピードが格段に上がる。

また、私自身は防災士の資格取得も長年考えていたが、夫が地域の役員になり、防災士育成の取り組みに参加したことをきっかけに受験し、共に合格した。行政の視点だけでなく、今後は地域住民としても役に立てる存在になりたいと考えている。

(3)熊本地震による被害

熊本地震は2016年4月14日と16日の二度にわたり、震度7の揺れを観測する地震であった。熊本市内でも震度5強から6強まで地域差があったが、益城町では震度7が2回発生し、甚大な被害をもたらした。余震は4以上の揺れが頻発し、発災後1~2ヶ月は「今のは震度3だ」「いや4だ」などと職員同士で言い当てられるほど慣れざるを得ない状況であった。

死者は64名で、熊本市内では直接死6名、関連死58名にのぼった。特に車中泊による血栓が原因となる関連死が多く、避難後の健康管理は大変重要となる。家屋被害では半壊が3万5千棟を超え、自身の自宅も半壊に分類された。

さらにライフライン被害では、地下水を水源とする熊本市が断水に見舞われたことの衝撃は大きかった。電気の復旧は比較的早く、14日の地震による片付けを終えた直後の16日の本震で再び家具が倒れ、心が折れたという声も多く聞かれた。祖父母宅では食器棚の中身が一斉に前に落ち、砂壁が崩れるなどの被害があった。一方、マンション上層階では揺れが大きく、タンスが倒れ、ピアノが部屋の中央付近まで移動するほどであった。

(4)災害ボランティアセンターの立ち上げと災害時の心のケア

自身が社協への出向直後に震災が発生し、職員の能力や性格を把握しないままボランティアセンター長を任せられ、130名中4名しか知らず手探りで進めるしかなかった。センター立ち上げでは赤い羽根共同募金会の専門スタッフが全国事例を示して支援してくれたが、状況は常に変化し迅速な判断が求められた。また、当初想定していた開設場所が不適切と分かり、平時の想定がそのまま通用しない現実も痛感した。

ボランティア受け入れでは、他自治体が県内限定とする中で、熊本市は政令指定都市として全国から受け入れる判断をした。記録保存では「不謹慎」と撮影を断ったものの、後に災害を伝えるには写真や記録が必要だと感じた。

震災1ヶ月後、来訪したカウンセラーにまず職員のケアを依頼したところ、

「大丈夫」と言っていた職員が面談で号泣するなど精神的負荷の大きさが明らかになり、災害対応職員ほど感情を抑え込みがちで適切なケアが不可欠だと分かった。

また、被災地に花を植えたいとひまわりを持参した男性を当時は断ったが、仮設住宅が整った時期なら住民を励ます支援になったはずで、被災地支援では「その時に何が必要か」の見極めが重要である。

(5) 行政支援体制と被災直後の課題

社協にはCAPからの派遣、行政の首長には内閣府から災害マネジメント総括支援員が派遣される仕組みであり、芦屋市でも近隣自治体との連携を含め、こうした支援員の存在は首長にとって大きな力となるはず。

被害調査は応援職員と地元職員で行い、道路障害時は地元職員の案内が重要だった。避難所は3名体制で、有事には専念し、平時から地域と訓練して「地域主体」を徹底している。行政負担集中の教訓を踏まえた仕組みである。

また、災害時は出勤手段が制限されるため、各職員が徒歩などを含む代替ルートを事前に確認しておく必要がある。道路寸断や渋滞はどの災害でも起こり得る。

(6) 避難所運営と職員の参集体制

熊本市では避難所担当職員を3名ずつ配置し、有事には1週間避難所業務に専念する。平時から地域と訓練し「避難所は地域が運営する」という意識づけを行っており、行政に負担が集中した東日本大震災の教訓を踏まえて地域リーダーとの関係構築を重視している。

発災後の職員の参集は居住地と移動手段に左右され、徒歩・自転車・バイクで来られる場合もあれば、道路寸断で大回りが必要なこともある。子どもの迎えや家族の避難方針なども事前に想定しておく必要がある。

長期参集できない職員は「2日目から来られる」「3日後には必ず来る」など事前に所属へ伝えることで体制構築が円滑になる。発災直後の安否確認や参集可否はLINE等で迅速に行い、出勤途中の写真共有は首長の被害判断にも役立つ。

(7) 物資拠点の混乱とマンパワーの限界

熊本市役所ロビーは発災直後から物資集積の拠点となり、フロアが物資で埋め尽くされた。写真では整って見えても、実際は何がどこにあるのか分からない「ゴミ屋敷状態」であった。各地から10tトラックが次々到着し、職員は24時

間体制で積み下ろしを行った。

依頼主が「物資の拠点に運ぶように」と指定した場合、運送会社は場所変更ができず、駐車場で一晩待機してもらうこともあった。

大量の水や物資を 10t 車から 4t 車へ人力で積み替え、さらに避難所向けに積み直す作業は肉体的に過酷で、職員の顔色が真っ青になるほどであった。社会福祉協議会職員やボランティアが手伝っても追いつかず、交代制を確立しないと二次災害になりかねない状況であった。

この経験から、フォークリフトなどの機械利用が不可欠だと強く感じ、自身も免許取得を決意した。フォークリフト導入後は作業が劇的にスピード化したため、可能であれば自治体職員も免許取得を検討すべきだと考えている。

(8)安全・防犯、家族の備え、日常備蓄の重要性

災害時には正常性バイアスにより、異常を正常とみなしてしまうことがある。そのため、避難所では子どもへの異常な接近など、不審行動を見逃してしまう危険がある。実際、子どもに過度に接触する男性がボランティアによって不審視され、現行犯で逮捕され、過去に児童への性加害履歴があることが判明した事例もあった。避難所では女性・子どもへの性被害が必ず起こり得るという認識が必要である。

また、災害時には盗難など犯罪も発生し、地域のお地藏さんが盗まれるという痛ましい出来事もあった。避難所や地域での防犯意識を高めることが欠かせない。

家庭の備えとしては、家族の避難場所の事前確認、ローリングストックによる食料準備が重要である。保存食だけを溜め込むのではなく、普段食べているものを少し多めに買い回しの方が現実的である。携帯が使えない場合に備え、公衆電話の利用方法や家族の連絡ルールも決めておくべきである。

個人的な備蓄としては、水 10 リットルの箱を常に補充し、リゾットやお粥・カレーなど湯煎不要で食べられる食品、ナッツ、プロテインなどを準備している。また、災害時は口腔ケアが極めて重要であるため、歯ブラシや洗口液の携帯を推奨する。



開催地より

熊本地震当時のことを写真や様々なエピソードと共にお話いただき、近い将来自分たちが直面する可能性のある状況を知ることができた。また、語り部から平時からの備えや心構えについて示していただき、受講者それぞれが災害対応を「自分ごと」としてとらえて、今できることにすぐとりかかろうとする様子も見ることができた。今回の研修実施の目的が達成でき、芦屋市の防災力向上にも繋がるという多くのきっかけを与えていただいた。